



# 神医 FAXニュース

## 第524号

編集・発行 神奈川県医師会

毎月第1・第3水曜日発行

TEL.045-241-7000

FAX.045-241-1464

インターネットホームページ  
http://www.kanagawa.med.or.jp

## 第6波を乗り越えるために～自宅 放置者「ゼロ」プロジェクト！～

令和4年1月14日

神奈川県医師会長 菊岡 正和

新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株への変異により、急激な感染の拡大がみられ、本県も第6波に突入しております。

オミクロン株は第5波で主流であったデルタ株以上の強い感染力を持つ一方で、海外の知見では重症化しにくいというデータも出ております。しかし、感染力が強いということは、感染者数が第5波の比にならないほど増加するという可能性があり、一定数は重症化することから、入院病床のひっ迫にもつながることとなります。また、軽症の方が医療機関に受診する機会が相当増えることも想定されます。

本会としては、このような状況下で、地域の医療を支える会員の先生方の医療機関の一層のご協力が不可欠と考えております。

そこで、以下の4つの項目についてぜひともご協力いただきたくお願い申し上げます。

- ① 多くの郡市区医師会では地域療養の神奈川モデルに参画しております。入院待機の患者さんや自宅療養の患者さんをサポートする医師としてご協力下さい。詳しくは、ご所属の郡市区医師会へお問い合わせください。
- ② 症状のある患者さん（発症から9日以内）については、PCR検査・抗原定量検査・抗原定性（唾液検体は除く）検査のいずれでも確定診断が可能です。そのため、抗原定性検査にて速やかに検査を実施することも医療機関内の感染防護の観点では有用となります。医療機関において最善と考える検査を選択し、実施いただくようお願いいたします。
- ③ 陽性の患者さんに対し、保健所のフォローが開始されるまで数日かかることがあり、第5波ではその間に重症化するケースが多く発生いたしました。そのため、検査結果で陽性と判明した後、保健所でのフォローが開始されるまでの期間において、患者さんの容態が悪くなった際に連絡がとれる体制作りなどのサポートをお願いいたします。
- ④ 神奈川県に登録されている発熱診療等医療機関は約1,900機関に上りますが、オミクロン株の急拡大となると、ひっ迫する可能性があります。ぜひ、発熱診療等医療機関へのご登録についてご検討をお願いします。

◎神奈川県ホームページ：「発熱診療等医療機関の指定について」  
[https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/ms/hybrid\\_20201001.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/ms/hybrid_20201001.html)

全国的にみると医療従事者への感染により通常の医療がストップする事態が発生している地域もあり、本県でも同様の事

態がいつ起こってもおかしくないと考えられます。この難局の中、県民の皆様へ適切な医療を提供するためには、会員の先生方の力の結集が必要であります。神奈川県医師会としてホームページなどで随時必要な情報を提供してまいりますので、なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 「労務対応・第2回医業承継セミナー（Web）」開催のご案内

令和4年2月26日（土）15:00より、「労務対応・第2回医業承継セミナー」をWeb〔Zoom〕開催いたします。

### 〈セミナー概要〉

日 時 令和4年2月26日（土）15:00～17:00

方 法 完全Web〔Zoom〕※来所しての参加不可

講 演 (第1部)「労務対応～トラブルを避けるために～(仮)」[30分程度] 講師 河合 亮介(馬車道 パーソネル 社会保険労務士)

(第2部)「医業承継～承継成立へ向けて～(仮)」

[50分程度]

講 師 板持 英俊(山田&amp;パートナーズ 税理士)

申込方法 本会ホームページ内バナー

または、QRコードから申込 →

※申込には、本会会員ID・パスワードが必要。

締 切：令和4年2月14日（月）まで



## 令和3年度「働き方改革推進 実務者セミナー」開催のお知らせ

実施方法 Youtubeにて視聴

配信期間 令和4年2月17日（木）

その後、令和4年2月21日（月）～3月4日（金）  
まで視聴可能内 容 (第1部) 医療機関でも実践できる働き方改革の方法  
～秘訣はチームマネジメントと心理的安全性～(第2部) 医師の働き方改革を進めていくための課題  
と取組

～医師労働時間短縮計画を中心に～

申込方法 <https://ux.nu/sdfn7>

または、QRコードから申込 →

主 催：神奈川県医療勤務環境改善支援センター

後 援：神奈川県医師会、神奈川県病院協会



最	旬	医	界	
		情		報

## 日医会員数17万3895人、9年連続増

—21年12月1日時点—

日本医師会がまとめた会員数調査によると、2021年12月1日時点の会員数は17万3895人（前年同期比567人増）だった。勤務医、研修医の増加が寄与した。9年連続の増加となった。

日医の医師賠償責任保険（医賠償）に加入の勤務医「A2会員（B）」は4万886人（599人増）、医賠償に未加入の勤務医「B会員」は4万3281人（373人減）だった。「A2会員（B）」と「B会員」を合わせた勤務医の会員数は8万4167人（226人増）となった。病院や診療所の開設者、管理者らが該当する「A1会員」は8万2946人（94人減）だった。

医賠償加入の研修医「A2会員（C）」は3290人（368人増）、医賠償に未加入の研修医「C会員」は3492人（67人増）だった。「C会員」と「A2会員（C）」は会費（医賠償保険料を除く）を無料化する取り組みを継続している。

全体の構成割合は「A1会員」が47.7%、「A2会員（B）」が23.5%、「B会員」が24.9%、「C会員」が2.0%、「A2会員（C）」が1.9%で、勤務医の割合がわずかに高くなった。

### ●代議員数は4人増の376人に

今回の調査により、会員数に応じて割り振られる都道府県医師会ごとの日医代議員数は4人増えて376人となった。東京都、神奈川県、愛知県、岡山県、佐賀県の各都県医でそれぞれ1人増える。一方、和歌山県医は1人減となった。

都道府県別の代議員数は多い順に▽東京都（40人）▽大阪府（33人）▽愛知県（22人）▽神奈川県（20人）▽兵庫県、福岡県（18人）▽埼玉県（15人）▽北海道、広島県（12人）—などとなった。任期は22年6月開催予定の定例代議員会から24年6月開催予定の定例代議員会の前日までとなる。

メディファクス1/11

## 「赤ひげ大賞」、岩手の植田氏ら5人が受賞

—日医—

日本医師会は6日、長年にわたって地域住民を支える医師を表彰する「赤ひげ大賞」の受賞者を発表した。岩手県医師会推薦の植田俊郎氏ら5人が大賞に選ばれた。会見で発表した日医の城守国斗常任理事は「長年にわたり、困難な状況の下で、住民の健康確保や福祉の向上に親身に取り組んできた、素晴らしい活動をしてきた方々ばかりだ」と賛辞を送った。

大賞受賞者は▽植田俊郎氏（岩手県医推薦、植田医院長・67歳）▽市川晋一氏（秋田県医推薦、仙北市西明寺診療所、仙北市松木内診療所長・70歳）▽鋤柄稔氏（埼玉県医推薦、シャローム病院長・74歳）▽大石雅之氏（神奈川県医推薦、大石クリニック院長・67歳）▽佐藤立行氏（熊本県医推薦、佐藤医院長・94歳）—の5人。

功労賞には13人が選ばれた。功労賞の受賞者は以下の通り（敬称略）。▽楯秀貞（北海道）▽今村憲市（青森）▽丸山博（千葉）▽鈴木慎太郎（東京）▽吉田まゆみ（福井）▽露木弘光（山梨）▽河合俊（静岡）▽西城英郎（三重）▽赤木重典（京都）▽田仲みすず（大阪）▽円山忠信（広島）▽星子卓（福岡）▽木原晃一（鹿児島）—。

メディファクス1/7

## 子宮頸がん、異常率上昇

—検査で、接種率低い世代—

大阪大や新潟大の研究チームは20日、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチンの接種率が低い世代は高い世代に比べ、20歳時点で受ける子宮頸がん検診での異常率が高いとの調査結果を公表した。

チームは24の自治体から計約7万4000人分の検診の結果を収集して分析。ワクチンの接種率が約62%の1999年度生まれと、約10%の2000年度生まれを比較すると、検診で子宮から採取した細胞で調べる検査の異常率は99年度生まれが約4%だったのに対し、00年度生まれは約5%だった。【共同】

メディファクス12/22

## 梅毒の感染数が過去最多

—国立感染症研、全国的に増加—

国立感染症研究所は14日、性行為などでうつる梅毒について、今年の感染者報告数が7134人になったと発表した。1月から12月5日までの人数で、現在の集計が始まって以来、過去最多。全国的に増加しており、特に東京や大阪、その周辺地域からの報告が多かった。

報告数は2010年以降、徐々に増え、これまでの最多は18年の7007人だった。19年、20年はやや減少したが今年は再び増えた。新型コロナウイルス流行でマスク装着などの対策が強化され、インフルエンザなど他の感染症が減少傾向にある中、高水準となっている。

都道府県別では東京が2226人と最も多く、大阪761人、愛知379人が続いた。人口当たりの人数は高知、岡山、宮崎などで多かった。妊娠中に感染して治療をしないと、死産につながる恐れもある。11月末までに胎盤を介して赤ちゃんにうつったケースは19例報告された。【共同】

メディファクス12/15

## インフル患者50人、昨年比23人減

—22年第1週—

厚生労働省は14日、2022年第1週（1月3～9日）のインフルエンザ発生状況を公表した。患者報告総数は21年同期より23人少ない50人だった。都道府県別では、最多の京都、大阪、山口が4人となるなど感染者数は例年と比べて著しく少ない状況が継続している。全国の定点当たり報告数は0.01。入院患者の届け出数は4人で、内訳は1歳未満が1人、50～59歳が1人、70～79歳が1人、80歳以上が1人だった。休校や学年閉鎖などの措置を取った施設はなかった。

メディファクス1/17

## ヘルパンギーナ、定点当たり報告数は0.10で減少傾向

—感染症週報第51・52週—

国立感染症研究所は17日、感染症週報第51週（2021年12月20～26日）と第52週（21年12月27日～22年1月2日）を合わせて公表した。第52週時点では、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.10となり、第47週の時点から減少傾向が続いているが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は富山（0.79）、新潟（0.70）、福井（0.35）。報告数は311。

### 【最近の注目疾患】

#### ●手足口病（小児科定点報告疾患）：報告数1440例

第52週時点での手足口病の定点当たり報告数も0.46と第47週以降減少しているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は島根（3.91）、鹿児島（2.89）、沖縄（1.94）。

メディファクス1/18